

事業所名	グループホーム ゆとり
日付	2009/2/26
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	介護支援専門員 介護福祉士 社会福祉主事 認知症ケア専門士 訪問介護員
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	※

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「心が躍る誇りある暮らし」という理念に添って、入居者に「生きる意欲」を持ち続けてもらい、その時 その時を喜んでもらえるような暮らしを目標としている。入居者が「自分の家」と思えるような、どこにでもある普通の暮らしの実現とゆとりのある生活を目指している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	居室・共用空間・戸外での活動等その人らしい生活を大切にした環境づくりと、温かい雰囲気の中で職員と入居者との馴染みの関係づくりに努め、笑顔絶やらず安心して生活できる場づくりに取り組んでいる。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人ですることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

1. 評価結果の概要

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
ホーム内は穏やかな雰囲気ですべて的に温かく笑顔のある暮らしが窺えました。常にニーズに応えるべく一歩前を見据えた介護に努め職員一人ひとりが目標を掲げて理念の具体化に取り組んでおり、職員配置も主に掃除・洗濯を行う専属の介護職員(有資格者)を配置するなど、ゆとりとバランスの取れた人員構成でコミュニケーションを大切にしながら現場づくりに取り組んでいました。入居者が家族に電話をしている姿が見られ「彼岸が近いので連絡を取っている」そうで、その人らしく暮らせる生活場が提供されていました。既存の3階建てのビルを憩いのある暮らしの場として改装し、スロープインバスで車いすでも安心して入浴できる浴室、男子トイレ・女子トイレもゆったりとしたスペースで使い易さが窺えました。全室・全フロアにスプリンクラーが設置してあり安全面での取り組みもされていました。
特に改善の余地があると思われる点
これからも地域の中の住居という位置づけが十分に浸透していく様に、ふだんの暮らしの中で外出を心掛け近所との付き合いを深めていかれらと思います。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	本人の生活歴や経験をよく知り尊重していくとともに日々の生活の中で信頼を深め、本人にとってのプラス面は伸ばしながら、また、マイナス面はしっかり保護してプライバシーに配慮したその人らしい暮らしの支援に取り組んでいます。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	認知症高齢者が共同生活をしながら家庭的な雰囲気ですべて的に暮らせるためには何が出来・何が必要か問い掛けながらサービスの質の向上に努めている。苦情や事故発生時は職員全員で同じミスを繰り返さない様改善策を立て対応している。また事故を未然に防ぐ対策として危険箇所や要因について検討する機会を設け、安全な生活に向けて改善していける様努力している。		